

フルカラーデジタル印刷機

Xeikon 8000

ユーザーの声：

**スピード
品質
稼働率**

品質に厳しい流通業界のDMを6日間で600万ページ印刷するために、
「この3つの基準で満足させてくれたのがXeikon 8000でした。」

パラジェット社 セールス・マーケティングマネージャー
ペル ラルソン氏談



主な仕様
印刷方式： 電子写真方式
色数： 4C/4Cもしくは5C/5C
印刷スピード： 最大260ppm (19.2mpm)
解像度： 1200dpi
対応用紙： 上質、コート、マット
320mm~512mm 幅
40gsm~250gsm

ユーザー紹介

Parajett AB (パラジェット) 社
<http://www.parajett.se>

1904年スウェーデンに設立した総合印刷会社。オフセット印刷、デジタル印刷を含むIT技術を駆使して、顧客毎に最適なコミュニケーションのためのソリューションを提供。

販売代理店

サカタインクス株式会社 事業開発推進本部

大阪本社 — 550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL05-6447-5874 FAX06-6447-5839
東京本社 — 112-0004 東京文京区後楽1-4-25(日教販ビル)
TEL03-5689-6674 FAX03-5689-6633

ホームページアドレス <http://www.inx.co.jp>



フォーム印刷

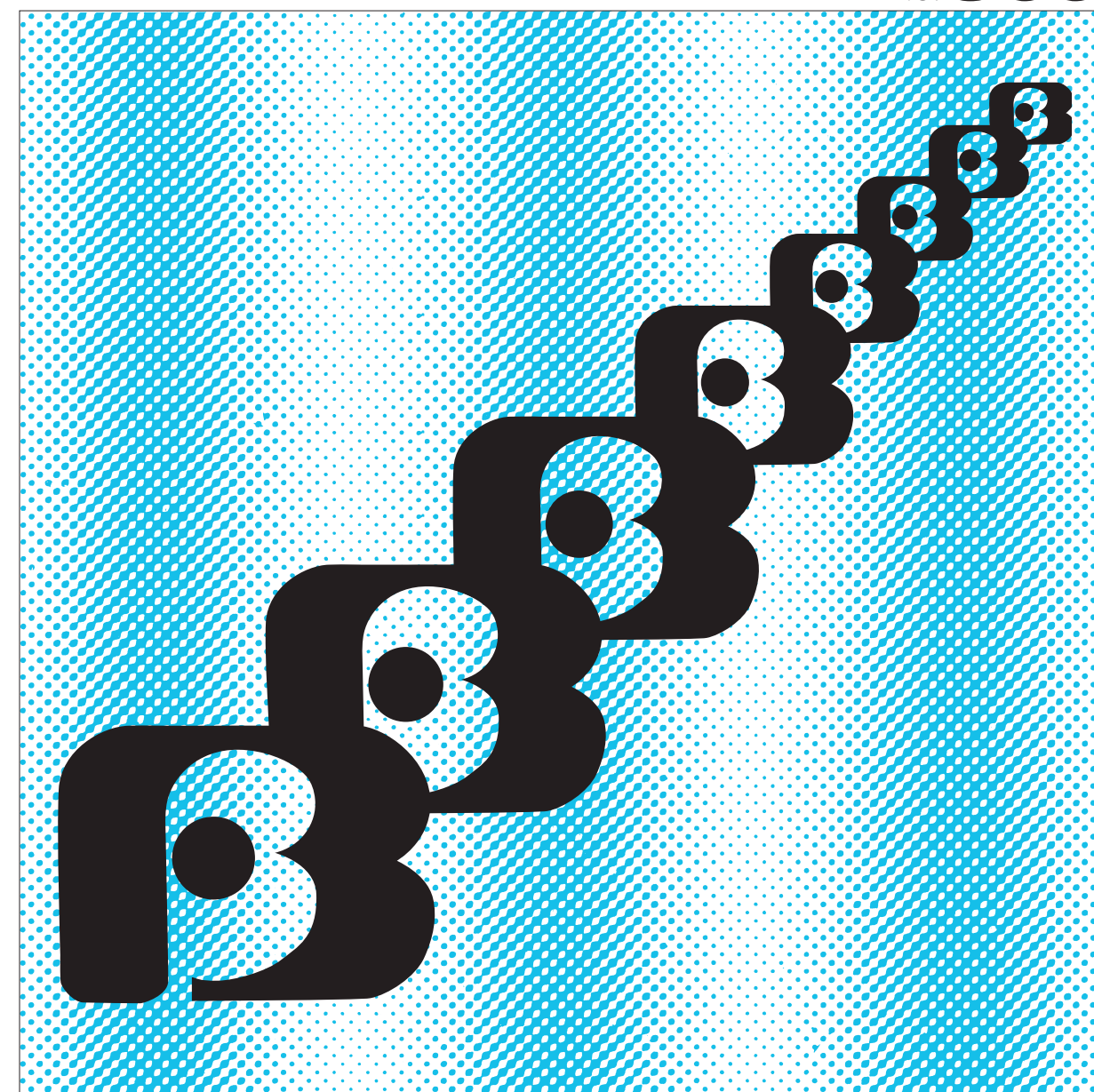


JAPAN BUSINESS FORMS ASSOCIATION

日本フォーム印刷工業連合会会報

発行 日本フォーム印刷工業連合会 〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館
TEL 03(3551)8615 FAX 03(3555)8466 ホームページ <http://www.jbfa.jp>

NO. **366**



2011 .1



Economy & Ecology
エコノミー & エコロジー

SCREEN

Truepress Jet520

フルカラーバリアブル
インクジェットプリンティングシステム

エントリーモデル

**導入コストを抑えた待望の
シリーズ機登場！！**

<特長>

- ◆ Truepress Jet520の品質機能を継承
- ◆ 高付加価値創出
- ◆ Eco設計による環境対応
- ◆ 業務内容に応じた前後処理装置の選択(OP)
- ◆ 全数・全面ビットマップ検査による品質保証(OP)
- ◆ 業務量に応じてバージョンアップ(OP)

New



●ダイレクトメール
圧着はがき(先糊、後ニス対応) etc...



●帳票関係
OCRドロップアウトカラー
薄紙・ノンカーボン用紙
保険証券・約款 etc...

●パーソナル出版・小ロット印刷
パーソナルカタログ・自費出版
新聞・フリーペーパー etc...





株式会社 メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル
VP営業統轄部 VP営業部
TEL03(3237)3116 FAX03(3237)3203
ホームページ <http://www.mtjn.co.jp/>

大日本スクリーン製造株式会社
メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目
ホームページ <http://www.screen.co.jp/>

年頭所感	2
日本フォーム印刷工業連合会 会長 小谷 達雄	
日本印刷産業連合会 会長 猿渡 智	
日本フォーム印刷工業連合会 副会長 瀬戸 良教	
日本フォーム印刷工業連合会 副会長 櫻井 醜	
日本フォーム工連 平成21年度第6回理事会議事要録	6
日本フォーム工連 平成21年度第7回理事会議事要録	8
トピックス	10
技術セミナー「急速な発展を遂げるiPad・タブレット端末の未来」 「人に判り易いコミュニケーションデザイン」を開催	
インタビュー「専門家に聞く中国事情」	
工業会だより	13
関東フォーム印刷工業会 緊急セミナー「中国と日本のグローバリゼーション」を開催	
中部フォーム印刷工業会 研修会「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」を開催	
北海道フォーム印刷工業会 セミナー 「進化するインクジェット技術・オンデマンド印刷と製本技術」を開催	
INFORMATION	15
国際委員会 北米印刷事情レポート(2010年10月～12月)	
業務委員会「2011年度版会員名簿」を発刊	
出展案内「PAGE 2011」に日本フォーム印刷工業会が出展	
書籍案内「印刷現場における個人情報保護Q&A 第3版」日本印刷産業連合会発刊	

ビジネスフォーム印刷専用エッチ液

FCリスコート H-17 BFシリーズ

特徴	☆UV・油性減感インキに適切な乳化特性を付与し、インキの過乳化を制御 ☆種々の材料をコーティングしたインクジェット用紙並びに感圧接着紙の使用時にも汚れにくい ☆耐水性の低い染料系インキ・減感インキご使用時でも水元ローラー絡みを極力抑制
----	--

富士薬品工業株式会社
FUJI CHEMICALS INDUSTRIAL CO.,LTD
HP URL <http://www.fcfuji.co.jp>

本 社 〒176-0012 東京都練馬区豊玉北3-14-10
TEL 03-3557-6201 FAX 03-3557-6205

大阪営業所 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町22-1
TEL 06-6384-1351 FAX 06-6389-3221

TOYO INK

東洋インキ製造株式会社 RC 事業部
東京都中央区京橋 2-3-13
Tel : 03-3272-7693
www.toyoink.co.jp

抜群の品質と生産性のフォーム印刷用インキ

FD フォーム X シリーズ

- 高い硬化性 UV 硬化性を大幅に向上、高速印刷に対応。
- 広い水幅 水を上げてても良好な印刷適正を実現。
- 優れた転移性 着肉を向上し印刷濃度をアップ。
- 紙面強度の弱い用紙の紙剥け防止タイプもラインナップ。

年頭所感

「顧客の課題をともに解決する存在に」

日本フォーム印刷工業連合会 会長

小 谷 達 雄

株式会社イセトー 取締役社長



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、日本フォーム印刷工業連合会の運営及び活動に対して、皆様より多大なご支援とご指導を賜わり厚くお礼申し上げます。

2010年のわが国の経済は、国内外の不安定な経済動向や政治情勢の影響を受け円高や株価の低迷が続き、厳しい雇用情勢やデフレが進行するなど予断を許さない状況にあります。

印刷産業全体でもこの不況の影響を全面的に受けると共に、電子媒体やデジタル化の急激な展開もあり、印刷市場へも大きな変革の波が押し寄せ、今年もさらに厳しい状況が続いていくものと思われます。

さらに、地球温暖化対策として二酸化炭素排出規制が一段と厳しくなることで、環境対応が印刷業界に影響を与えると推察されます。

我々フォーム印刷の業界はこの中であって、D P S 事業拡大など時代の潮流を先取りして、何とか全体としての市場規模は維持してまいりましたが、D P S 事業も徐々に頭打ち傾向が見えてきています。

市場動向はデジタル化、モバイル化などによる情報手段がさらに多様化し、それに伴って顧客の要求度も一段と高度化、複雑化してきていると実感しております。

その高度化、複雑化する要求とは、単なる情報伝達としてのビジネスフォームから、様々なメディアや手法に対応し、顧客の課題をともに解決していく存在が我々業界に強く求められてきています。

このような中、昨年は団体の活動として、市場動向の調査や業態変革に関わる技術、環境問題のセミナーや研修会などを積極的に進め、会員の啓発促進に取り組んでまいりました。

今後とも、業界基盤の整備と体質強化を推進するため、委員会活動を中心としてタイムリーな施策を実施し、フォーム印刷業界会員各位の活性化と発展を図る所存です。

年頭にあたり、皆様のご健勝と事業のご繁栄を祈念してごあいさつとさせていただきます。

年頭所感

社団法人 日本印刷産業連合会 会長

猿 渡 智



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は日本印刷産業連合会の運営に対し、格別のご理解、ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

昨年度は夏の猛暑、車のエコカー減税や家電のエコポイントなどのお蔭で、消費が大きく拡大するかに見えたが、その効果は一時的なものにとどまり、全体の実感としてはあまり力強い回復にまでは至りませんでした。日銀が発表した12月の短観においても、リーマンショックによる景気後退後、2009年から続いた景気回復が足踏みして、景気の潮目が変わりつつあることが示されています。3ヶ月先の予測についても、景況感を示す指標はさらに悪化していて、円高や海外経済動向などを背景として、企業の警戒感が強く、日本経済の成長復帰に不透明感がくすぶっていると言えます。

そうした中で、大変な人気を博した製品が出たのも昨年の特徴だと思います。たとえばiPadは電子書籍のブームを作りましたし、年末にかけて各社が一斉に販売したスマートフォンの売れ行きも好調と聞いております。さらにゴパンというお米からパンを作る機械やあるメーカーの出した高級ティッシュなどは売れすぎて製造ラインの見直しから販売を一時中止するほどに売れています。

あたりまえのことではありますが、いかに顧客のニーズを満たす製品・サービスをタイミング良く提供できるかが真に問われているのだと思います。かつては斜陽産業とまで言われた繊維、鉄鋼、造船などが、最近では復活してきていると聞いています。これは単にビジネスボリュームだけを目指すのではなく製品に付加価値を付け、製品を差別化して行くという新しい成長戦略を描き直したことによるものと思われます。われわれ印刷産業に求められているものも、まさにこうした付加価値を付け、差別化して行く事です。「付加価値」や「差別化」というとハードルが高そうに聞こえますが、顧客の課題解決に的を射たものであれば、必ずしも高度なものでなくても十分に適用するはずです。

たとえば顧客の業務プロセスを熟知することにより解決策を提案したり、特定の業界・市場に精通して、顧客の気付かないような点に対する適切なアドバイスを行うとか、自社の強みをもう一度整理し、その強みを一層強化していく事で、他社との差別化を図る事は、会社の規模の大小を問わずに可能なことです。受注産業として築いてきた仕事を、従来と同じやり方で、ただこなしているだけでは先細りになるのが確実です。トータルのボリュームがたとえ減ったとしても、コンセプトや創意工夫などの知恵によって、付加価値を増やし、経営を維持できる収益を確保できるようにさまざまな工夫をしていく事が重要だと思います。そのためには、自社にとっての強みとなる新しい分野・未開発市場を、見つけ出していくことも必要です。幸いにも印刷産業は幅広い顧客を持っており、この中で自社にとって最も有望な市場を探し出し、自社の強みになるコア技術やサービスを明確化して行く事は可能のはずです。

今年は印刷文化典の年です。これを機に新しい印刷産業の在り方を問うビジョンを発表する予定にしております。連合会の諸活動を通じて、さまざまな情報共有を行い、各社がさらなる発展のための設計図を描いていけるよう明確な市場を確保し、業界としてのビジョン実現、そして健全な業界を作っていけるよう、皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭所感

「紙の持つ利点を生かそう」

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

瀬戸良教

株式会社昇寿堂 取締役社長



新年あけましておめでとうございます。

昨年の夏は記録的な猛暑に襲われましたが、年末から年始にかけては近年にない大雪の来襲で日本海側の皆さんは大変な年末年始であったことでしょう。大雪や洪水・大干ばつなど地球規模で異常現象が起こっています。これらの気候変動はもはや異常気象ではなくなっているのかも知れません。

経済や金融面でも昨年の動きを振り返ってみるとギリシャやポルトガルなどから大きな変動の波が伝わってきました。コンピュータではクラウド時代が本格的に到来してきましたし、パソコンの時代も携帯端末の時代へと急速な変換が現実のものとなっています。

日本の経済も長引く不況から今年は多少上向くであろうという観測もありますが、そうなったとしてもITの進歩はすさまじい勢いで世の中を変化させていて、もはや用紙需要の大幅な回復は期待できません。

我々ビジネスフォーム業界にとって以前は大量に受注していた納品書・請求書・領収書の類はeコマースの世界では不要なものになっていますし、カタログ・パンフレット等もインターネットやオン・デマンド・プリントに置き換わってきています。かつて大量にあった複写伝票もいまや特殊な分野での商品となり、印字のためのシリアルプリンターを探すことすら困難な状況にあります。

情報処理の分野でもセキュリティ保護のためのコストは益々増大し、システム変更による設備投資も経営を圧迫してきますし、それによる設備過剰も見られてきております。

近年に於ける印刷業界の低迷は業態の変化によるものがその要因と捉えるべきだと思いますが、個人的には紙による情報伝達が見直される時期が来るものと期待しています。デジタルによる情報は世界中に大量に、そして瞬時に配信されます。昨年来、情報漏洩や違法コピーといった事件が世界中で報告されましたが、これらのデータは殆ど全てがデジタル化された情報です。紙による情報は必要最低限に制御できますし、コピーや流出を追尾することも容易です。

情報処理業界の一翼を担うフォーム工連としても変化に対応した新しい印刷技術や商品の提案を積極的に行って、より安全で社会のニーズを生み出す製品を、皆様と一緒に開発していきたいと願っております。

年頭所感

「脚下照顧」を心構えとして

日本フォーム印刷工業連合会 副会長

櫻井 醜

トッパン・フォームズ株式会社 取締役社長



新年明けましておめでとうございます。

穏やかな気候の中、会員の皆様には、ご健勝にて2011年の新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日ごろの日本フォーム印刷工業連合会の活動に対するご理解、ご協力、そして多大なるご支援に心から感謝を申し上げます。

日本フォーム印刷工業連合会も、本年、設立46年を迎え、長年にわたり会員各社の発展のために着実な成果を上げてまいりました。この間日本の産業の礎として大きく貢献してきたことは、私たちの誇りとするところです。

昨年は、1968年以降世界第2位を守り続けてきた日本の国内総生産額が、ついに中国に追い越され3位に転落するなど、さまざまな分野で世界における日本のプレゼンスに危機感が強まった年となりました。2011年は、時代がさらに大きく動いていく予感がします。

少子高齢化と人口の減少がますます進展し、グローバル化、新興国の台頭がより顕著になり、地球規模での環境問題がクローズアップされ、ますます資源の制約が現実のものとなります。それに伴って人々の価値観・行動様式が変化するとともに、産業構造が大きく転換、さらに政治や経済、社会がグローバルレベルで混迷を深め、日本経済の成長の道筋もますます不透明になると予想されます。

私たちの業界も、ビジネスフォームの簡素化・縮小化が一段と進み、また電子化、ペーパーレス化の波もとどまるところを知りません。DPS事業も成熟期に入ったものと推定されます。このような時期に大事なことは、一刻も早く加速するペーパーレス化・ウェブ化による新たな市場の出現へ備えることであり、それに対応するビジネスモデルを確立することです。

この変化の時代に私たちがしなくてはならないことは、「脚下照顧」すなわちしっかりと足元を見つめなおし、強みを再確認することです。その上で変革の牽引者となって、人々の豊かな生活とより良い未来に向けて、時代をリードするということではないでしょうか。

もう一度原点に戻り、実際にお客様の業務現場へ赴き、よく観察し、お互いのコミュニケーションを強め、リレーションシップを構築することです。そしてお客様とともに真摯に課題に対応し、持てる企画力・技術力を総動員し、ソリューションを提案し続けることによって、お客様とともに成長していく、このこと以外に私たちの発展はないと思います。

今後も引き続き日本フォーム印刷工業連合会の活動を通じて日本の産業の躍進に貢献していく所存ですので、会員各位のなお一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第6回理事会議事録

■平成22年10月14日(木) 午後3時～5時 箱根ホテル小涌園 コンベンションホール「望月」

■出席者 (40名)

小谷会長、櫻井副会長、瀬戸副会長、小谷(正) 常任理事、中村常任理事、丹羽常任理事、神崎常任理事、玉田常任理事、岡田常任理事、福田常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、林常任理事、石坂理事、坊野理事、玉井理事、長谷川理事、山口(専務理事事務局)(18名)
その他 関東フォーム印刷工業会理事及び監事(12名)
オブザーバー(特別会員及び関東会員)(10名)

議 題 (1) 委員会報告

(2) 日本印刷産業連合会等関連報告

(3) 各フォーム印刷工業会からの報告

議 事 冒頭、小谷会長の開会挨拶があり議事に入った

「小谷会長挨拶骨子」

前回、関東地区で行なった持回り理事会は、都内での開催であったので宿泊をしないでお帰りになれる理事もいらっしゃったので、今回は理事の皆さんがゆっくりお泊りになり懇親を深めて頂きたいと思い、箱根での開催に致しました。また 本日は関東の理事の皆さんも参加頂けるように、関東の理事会も兼ねての開催になりましたので、大変多くの方々のご参加を頂いた会議になりました。

9月にはフォーム工連の会長を務めて頂きました福田顧問の叙勲祝賀会を行ないましたが、団体として誇るべきことと思います。

先日、私は駆け足でヨーロッパ数カ国を廻ってきましたが、各国とも景気が良くなり象徴的な出来事として、ヨーロッパ圏内の物流が25%ダウン、また 有名ブランドショップでの在庫が全くないなど、異常な状況を目のあたりにし肌で感じて参りました。

各国で国内需要の拡大を目指したいところです。

委員会報告

各委員長より、資料に基づいて報告があった。



●資材委員会

・10月度用紙事情についての報告があった。

●業務委員会

・9月度月次計算についての報告

●環境委員会

・日本印刷産業連合会グリーン資機材認定制度についての説明及び日本フォーム工連の取り組みについての報告

●技術委員会

・10月29日に開催する技術セミナー「急速な発展を遂げるiPad・タブレット端末の未来」「人にわかり易いコミュニケーションデザイン」について報告

●市場調査委員会

・市場調査アンケート実施計画についての報告

日本印刷産業連合会等関連報告

事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。

(1) 2010年9月印刷の月に関する結果報告

(2) 2011年新年交歓会開催概要に関する件

- (3) 政府調達の「競り下げ方式」導入について
- (4) 2011年技能五輪ロンドン大会選手推薦について
- (5) 市場調査委員会(日本印刷産業連合会)から報告
- (6) 文字情報基盤事業推進委員会(経産省依頼書)
- (7) 環境関連報告 GP工場認定資料 等
- (8) 印刷産業における下請適正取引等の推進のためのガイドライン説明会開催のご案内
- (9) 経済産業省統計調査広報に関する依頼
- (10) 印刷図書館主催「文化講演会」開催のご案内

各フォーム印刷工業会からの報告

関西フォーム印刷工業会報告(清水会長)

関西独自で開催した環境セミナーにおいて発表した内容を玉井理事から報告を頂く。

東洋紙業(株)で実施し大変削減効果が大きかった「工場の空調熱源転換によるCO2削減」、まだ、定着には至っていないが営業を巻き込んで取り組んでいる「原紙使い切りロットの受注活動促進」、旧来の紙管から水に溶けやすい「グリーン紙管への切替」について発表した。

関東フォーム印刷工業会報告(瀬戸会長)

7月17日(土)に開催した「見える化」ファシリテーションについての勉強会概要を瀬戸会長から、各社での取り組み状況を岩上光男 理事(カワセコンピュータサプライ(株))、根岸敬 理事(株昇寿堂)、浜岡光雄 監事(株木万屋商会)がそ



説明する浜岡光雄氏

れぞれ興味深い内容の事項を報告した。

業績向上につなげるためには、①各自が現在の能力を認識 ②PDCAサイクルの実践 ③さらなるノウハウの蓄積と「見える化」でナレッジブックを更新・改良することにより、より高度な活動を目指す事を発表。

中部フォーム印刷工業会報告(松尾会長)

印刷産業を斜陽産業にしないこと、また 地元の会員の活性化を図ることが使命と思う。5月には法政大学大学院教授の坂本先生からの講演や11月開催予定の電子書籍関係の講演などフォーム工連で行なっている内容を横展開する様になって、積極的な参加を得ることができるようになった。

東北フォーム印刷工業会報告(佐久間会長欠席のため事務局から報告)

9月22日に会員19名が参加し、秋田県の(株)宮腰デジタルシステムズの工場見学会を実施し、95台にのぼる様々な加工機械設備や、出荷調整中のデジタル印刷機を見学することが出来た。九州フォーム印刷工業会報告(和田会長欠席のため事務局から報告)

9月16日に30名の会員及び特別会員が参加して、人材派遣(株)清友(せいゆう)の宮之原明子氏から「人の心をつかむコミュニケーション術」と題して実技を交えて講演を行なった。

最後に櫻井副会長より閉会挨拶があった。

「櫻井副会長挨拶骨子」

今日の報告を聞いて観光気分が吹っ飛んで仕舞った。世の中これからやって行かなくてはならない項目は、関西工業会から発表の環境改善、関東工業会発表のナレッジマネジメントの取り入れと思う。既存事業をこのまま続行しても縮小あるのみ。また 売上を追いかけることが本当に社員の活性化やモチベーションに結び付くのか、非常に示唆に富んだお話しであった。ナレッジマネジメントの究極は、経営者が差別化し成長戦略を描けるかが求められる。

人間は2つの軸を持っていると思う。売上やGDPで一喜一憂する生き方と、幸せの尺度で測る生き方である。今日本はこの尺度から考え直す必要があると、今日のナレッジマネジメントの説明を聞いてこんなことを感じた。

日本企業の各社の営業利益は5%を切っているが、海外では10%を超えている。フォーム業

界発展のために、会員各社と率直な意見交換を行なって進んで欲しい。

次回 平成22年度第7回理事会
開催日 平成22年11月11日(木)
時間 午後1時30分より
場所 日本印刷会館2階201会議室
を確認して閉会となった。

日本フォーム印刷工業連合会 平成22年度 第7回理事会議事要録
■平成22年11月11日(木) 午後1時30分 日本印刷会館2階201会議室 ■出席者(23名) 玉田常任理事、福田常任理事、佐藤常任理事、松尾常任理事、清水常任理事、小島常任理事、和田常任理事、林常任理事、佐々木常任理事、福武理事、石坂理事、坊野理事、長谷川理事、服部理事候補、滝本理事、西川監事、吉澤監事、山口(専務理事事務局)

議題 (1) 役員補充選任及び委員会委員委嘱について
(2) 委員会報告
(3) 日本印刷産業連合会等関連報告
(4) 各フォーム印刷工業会からの報告

議事 冒頭、櫻井副会長の開会挨拶があり議事に入った。

「櫻井副会長挨拶骨子」

先日3役会議を開催してフォーム工連の来期の予定と行動計画について話し合った。新聞等の報道を見ると、緩やかな回復傾向にあるとか、リーマンショック時の9割程度まで回復したとか、という記事が載っているが、実感が全くなく長期低迷の中で会員企業も非常に厳しい状態で努力されていると思う。

フォーム業界全体としての活性化策を考える必要を感じ3役会議では色々と提案した。この新たな提案や企画を会員全員が一緒になって元気に実行することで、フォーム業界を活性化させて行きたいと思う。

役員補充選任及び委員会委員委嘱
任期途中であるが長谷川正則理事(小林クリ



エイト(株)から辞任の申出があり、理事及び市場調査委員の後任として服部章氏(小林クリエイト(株))を選任した。

委員会報告
●資材委員会 ・11月度用紙事情についての報告があった。
●国際委員会 ・10月度米国レポートを報告。 米国シカゴで10月3日～6日に開催されたGraph Expo 2010の展示内容についての報告。
●業務委員会 ・10度月次計算についての報告。 ・平成23年度主要会議日程及び活動計画について

- 市場調査委員会
・市場調査アンケート回収状況についての報告。
- 技術委員会
・10月29日開催した技術セミナーについて、当日実施したアンケート調査結果を基に報告を行なった。
- 環境委員会
・GP認定資機材推奨のご案内

日本印刷産業連合会等関連報告
事務局山口より、資料に基づき以下の報告があった。 (1) 2011年新年交歓会についての説明 (2) 印刷産業の下請ガイドライン説明会 (3) 印刷物PCR解説セミナー(日印産連環境委員会) (4) 米国PIA Flash Report報告(国際委員会) (5) 印刷図書館主催文化講演会開催について (6) 冬季の省エネルギー対策(経済産業省資料)について報告 (7) 印刷白書2010資料について報告

各工業会報告
北海道フォーム印刷工業会報告(佐藤会長) 11月26日に定山溪温泉で大日本スクリーン製造(株)と(株)ホリゾンに講師をお願いしてインキジェットプリンターと、後処理加工設備の動向について勉強会を開催した。
中部フォーム印刷工業会報告(松尾会長) 11月18日に東京電機大学出版局局長の植村八潮氏により「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」についての研修会を60名以上の会員が参加して実施され、大変好評であった。
関西フォーム印刷工業会報告(清水会長) 10月28日に30名が参加し支部例会を開催した。フォーム工連理事会の報告の他、各会員企業のメンタルヘルスへの取り組みについて発表した。また「第25回ブチ勉強会」を行い、都インキ(株)から「インキの環境マーク適応基準につい

て」インキの組成や各種マークなど幅広く情報を入手した。

四国フォーム印刷工業会(小島会長)
四国の状況も良くない。今四国工業会での問題は、以前13社の会員企業で活動していたが、現在会員企業が減少し5社に減り、会員の所在地も離れているのでなかなか集まって活動が行えない状況にある。

九州フォーム印刷工業会報告(和田会長)
9月にはフォーム工連理事会の報告の他、「コミュニケーションのスキルアップ術」についての勉強会を実施し大変好評であった。12月は忘年会を実施するが、会員の活性化のために現在年に2回行なっている勉強会を、3回の実施に増やしたいと思っている。

最後に小谷業務委員長より閉会挨拶があった。

「小谷業務委員長挨拶骨子」

本日は事情により小谷会長、瀬戸副会長が欠席されておりますが予定通り開催させて頂いた。

冒頭に櫻井副会長からありましたように、業界の活性化を図れとの言葉を何回も頂いているので、是非、一歩でも二歩でも前進できるように協力して進めて行きたい。前回、箱根で開催した第6回理事会は中身ある内容の理事会になり、会員企業の3社で取り組んでいる内容や方向性など、依り具体的な報告があり大変良かったと思う。

12月の理事会は休会になるので、次回第8回理事会は新年の1月になる。

次回 平成22年度第8回理事会及び新春講演会
開催日 平成23年1月27日(木)
時間 午後2時30分より
場所 目白椿山荘「ベガサス」
を確認して閉会となった。

技術セミナー

「急速な発展を遂げる iPad・タブレット端末の未来」
「人に判り易いコミュニケーションデザイン」を開催

技術委員会(丹羽喜一委員長)は10月29日、日本印刷会館・会議室において技術セミナーを開催した。

第1部のセミナーでは(社)日本印刷技術協会(JAGAT)研究調査部部長の郡司秀明氏が「急速な発展を遂げるiPad・タブレット端末の未来」をテーマに講演。郡司氏は「業界ではiPadを電子書籍端末として騒がれているが、実は新しいコミュニケーションツールであり、しかも動画配信との融和性が非常に大きい」と見解を述べ、実際にiPadを持ちこんで電子書籍以外の営業支援ツール、教育分野、医療系分野など様々な活用事例を紹介した。

さらにiPad・タブレット端末を活用した新たなビジネスへの展開として「商業印刷であれば画像処理技術を応用しCG分野や動画分野へ、BF産業であれば情報処理技術を活かし、データハンドリングとデジタル印刷分野の新規事業へ」とチャレンジすべきと呼びかけた。

第2部ではユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(UCDA)の八杉淳一副理事長が「人に判り易いコミュニケーションデザイン」をテーマに同協会の組織と活動について紹介した。



講師 郡司秀明氏



講師 八杉淳一氏

企業から生活者へ提供する情報を「見やすく、わかりやすく、伝わりやすく」改善する支援。「わかりやすさの基準」を確立し、認定する評価制度等、顧客接点の改善を目指す活動を行なっている説明。帳票の余白や文字数、帳票レイアウトのデザイン分析や評価を行なう独自ソフトウェア(DC9ヒューリスティック評価法)を用いた帳票作成の手順モデルを紹介する。



セミナー会場風景

インタビュー

専門家に聞く中国事情

関東フォーム印刷工業会の緊急セミナーとして、スウィングバイ2020(株)社長 海野恵一氏を招いて12月16日に日本印刷会館にて「中国と日本のグローバリゼーション」についての講演会を開催したが、ラベル新聞新年号に海野社長へのインタビューが掲載されました。



海野恵一氏

「チャイナリスクは中国人の問題ではなく、日本人の仕事の進め方に問題がある」——。スウィングバイ2020(株)(東京都中央区東日本橋)の海野恵一社長はこう訴える。同氏は中国人社会で30年以上にわたって、活動してきた経験から、日本人と中国人の性質の違いを「あうんの呼吸」があるかないかであると分析。この違いを知らずに中国で仕事をする企業が多くの問題を抱えていると指摘する。また、国の体制も多くの日本人が考える中国とは違った顔があるという。海野氏に話を聞いた。

——ご自身の経歴をお教え下さい

「私は米国の会社に32年勤務し、家庭では中国人の妻を持つ生活を30年以上続けてきました。退社後は起業し、中国と日本の橋渡し役のような仕事を始めました。現在、上海と大連に事務所があり、BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)を中心に会社設立支援や人材支援、中国での研修などの事業を展開しています。また、国際人を育てるために『グローバリゼーション研究会』という勉強会を開いて、後進も育成しています」

——中国について政治体制や経済をどう見ますか

「皆さんは中国というと社会主義のイメージがあると思いますが、1995年以降の中国は完全に資本主義です。ただし、ご存じの通り一党独裁ですので、言論の自由は相当制約されているといえます。こういう国では当然、企業の命運も国次第の部分があります」

——中央と地方政府の間にも分断があるそうですね

「農業入りギョーザ事件で日本人は『中国人はうそつきだ』という認識を持ってしまいました。しかし、それは違う。中央政府の警察力が事件のあった地方には及ばないのです。だから、事実が上がってこない。仕方なく、中央政府は、『中国国内で入れられた形跡はない』と発表してしまう」

——政治体制から考えると進出には大きなリスクがありますね

「その通りです。政治の体制の奥には、昔からあるもっと深いしがらみがあります。それは地主と農奴という関係。中国人のほとんどが4000年もの間、農奴だったのです。彼らはひたすら言われたとおりに畑を耕すだけ、考えながら仕

事を進めるという習慣はありませんでした」

——そう聞くと、中国進出というのは恐ろしいことのように思えてきます

「しかし、中国の成長力は目を見張るものがあります。そして、その波に乗らねば、日本企業は大きな成長は見込めません。日本語が分かる人材も多く、彼らをうまく使えば、会社に大きな利益をもたらすでしょう。それにリスクは中国に限ったことではありません。中国で通用しなければ、世界中どこに行っても、同じような目にあうと思います。『中国人に手玉に取られた』という人がいますが、手玉にとられるのは日本人の仕事の進め方に問題がある。つまり『チャイナリスク』ではなく、『ジャパンリスク』なのです」

——中国人と日本人の違いは

「一番大きな違いは中国人に『あうんの呼吸』のようなものがないことです。目配せ、というのも中国人にはなく、すべて言葉に出して言わなければ分かりません。中国人だけではなく、世界中で『あうん』が分かるのは、日本人だけではないでしょうか。その中国に行って、あうんの呼吸で仕事をしようとするから、失敗するのです」

——海野さんは「ギブ・アンド・テークで仕事を進めよ」といっていますね

「中国人は時給が1500円なら、その分の仕事だけは進めようとします。仕事をマニュアル化させ、給料分の仕事をさせることが大事です。仕事内容をマニュアル化するために自己分析させると、彼らは正確なものを書いてくる。一方、日本人は800円の時給でも放っておけば、いくらでも仕事をする。そのかわり、自己分析では自分ができないことや、職域を越えたことまで書いてきます。そして同じことを中国人に求める。

これではうまくいくはずがありません。しっかりと標準化し、マニュアルで仕事を進めましょう。これができれば、世界中どこに仕事を移しても、大丈夫なはずですよ」

——企業が進出する場合には、どのようなかわり方がいいのでしょうか

「中国にすべての工場や本社機能を移してしまうのは危険です。片足を突っ込んでおいても、いつでも抜け出せるようにしなければなりません。また、中国では人脈がすべてを決定してしまう側面があります。私の場合は妻が中国人で、政財界につながりがあるので、人を紹介したり、日本人には入手できないさまざまな情報を収集することができます。中国でビジネスをするためには、まず人脈をしっかりと築く必要があるのです」

——これから、海外に進出する企業にメッセージを

「まずは進出する国の歴史を学んで欲しい。そこでその国の背景に何があるのかを見極める。そうでなければ、海外で成功するのは難しいのです。私はアメリカのオバマ大統領が任期を終える2013年に、世界の景気が大きな回復を見せると考えています。この波に乗り遅れないためにも、グローバルな経営者を目指してください。日本国の行く末をどうするのか、という大きな視点に立って、経営を進める人がもっと増えて欲しいと考えています」

(聞き手・ラベル新聞記者 中村真己 氏)

スウィングバイ2020(株)では、グローバリゼーション研究会、BPOセミナーなどを開催。

問い合わせは ☎03・3537・7345) まで

関東フォーム印刷工業会 主催緊急セミナー

「中国と日本のグローバリゼーション」を開催

関東フォーム印刷工業会(瀬戸良教会長)は12月16日、日本印刷会館2階会議室において関東理事及び会員45名が参加し、スウィングバイ2020(株)社長 海野恵一氏が、「中国と日本のグローバリゼーション」について講演した。

日中関係の難しい時期に、タイミングの良い興味深い内容の講演会であったため、参加者は非常に熱心に海野社長の講演に聞き入っていた。

海野氏は「このままではアメリカの景気が回復する2013年に日本は取り残され、一緒に回復し飛躍をすることができない」と指摘。「日本企

業の問題点は事務部門での「あうん」による生産性の低さと、Japanese Standardに基づいた技術だ」と話す。

「今、日本に必要なものは“先を見たビジョン”“チャレンジ精神”“幅広い常識”“グローバリゼーションによる世界共通認識”である」と。そして海野氏は「日本人の価値観である「真面目」「正直」「勤勉」「嘘つかない」は世界の中で貴重な文化であることに誇りを持ち、ビジネスにおいてもっと日本の良さをピールすべきである」と語った。



講師 海野恵一氏



セミナー会場風景

中部フォーム印刷工業会 主催研修会

「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」を開催

中部フォーム印刷工業会(松尾富正会長)は11月18日、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」会議室において、東京電機大学出版局局長の植村八潮氏が「電子書籍時代のクロスメディアビジネス」について講演。中部工業会会員を中心に62名が参加して開催した。

講師の植村八潮氏は、「電子出版と電子書籍端末の歴史」「電子出版・電子書籍の特徴」「クロスメディアビジネス」「電子書籍流通基盤の構築」「出版社と印刷会社の取り組み」等話をした後、「ペーパーメディアはなくなるか」に



講師 植村八潮氏

ついで次のように語った。

「ペーパーメディアは間違いなくシュリンクする。しかし、文字とか情報は今後とも変化せず残って行く」と指摘した上で、「情報価値をどのように演出して行くか」が問題と提起した。

「紙による信頼性」と「デジタルによる速報性」をどのようにコンビネーションして売り込むか、という時代を迎えたことを示した。

「印刷企業が本当の情報産業であれば、紙にこだわる必要はありません。印刷するコンテンツデータはアウトプットの仕方に熟知している印刷会社が全部持っているはずだ」「印刷産業界はこのことを十分認識し活用することが重要である」と話され、印刷業界の今後の取り組みに対して、大きな示唆を与える研修会となった。



セミナー会場風景

北海道フォーム印刷工業会 主催セミナー

「進化するインクジェット技術・オンデマンド印刷と製本技術」を開催

北海道フォーム印刷工業会(佐藤泰光会長)は11月26日、定山溪グランドホテルに於いて、30名以上の会員が参加してセミナー及び懇親会を開催した。

セミナーでは、(株)メディアテクノロジージャパン実原弘明氏から「進化するインクジェット技術」について、(株)ホリゾン東テクノ大塚卓生氏からは「オンデマンド印刷と製本技術」をテーマに講演。

現状維持では先細りの印刷関連業界において、新しい分野での受注や新規開拓を進めるための突破口として期待できる講演内容であったため、受講者からは多くの質問も出されて熱のこもったセミナーになった。

その後、懇親会を開催して参加者の自己紹介や、各社の近況報告を行なう等、会員同士の親睦を深めた。



セミナー会場風景

国際委員会

■国際委員会 北米印刷事情レポート(2010年10月～12月)

Graph Expo 2010のキーワード

10月3日～6日にシカゴでGraph Expo 2010が開催された。今年の展示会も一言でいうとインクジェット展示会といえよう。デジタルプリント市場は、現在トナー方式が主流となっているが、10年以内にはインクジェット方式に取って変わっていくと予想されている。その予兆は今回のGraph Expo 2010では如実に表れている。

HP社は600feet/分でプリント可能なT350が注目を集め、富士フイルム(株)はJ Press 720を北米で初公開し、Kodak社はProsper 5000XL、大日本スクリーン製造(株)はTruepress Jet520 ZZを展示していた。

オフセット印刷機に関しては、まったく展示が見られなく、今まで最大級のブースを構えてきたハイデルベルグや小森コーポレーションなど大手印刷機メーカーが不在であった。

一方、最大級の展示ブースを構えていたのは、ゼロックス社、HP社、EFI社などのデジタル勢。展示会のブースの大きさがオフセット印刷機とデジタルプリントが逆転したのは2009年だったという。

展示会の主な目的は機械などの能力をデモンストレーションすることだが、デジタルプリントの関連技術は日進月歩で、その変化は年単位で見える事が出来るが、成熟したオフセット技術について毎年デモしても、その変化をアピールすることが難しい。

また、大きな生産設備を展示するには、かなりの費用と準備がかかるため、現在の景気を考えると、やむを得ず控えないといけないだろう。これはオフセット印刷だけではなくデジタルプリンターにも言える。Kodak社がインクジェットプリンターをPrint 09でまったく展示しなかった事は記憶に新しい。展示ブースでは最大級モデルの展示を控え、50～70PPMクラスの小型モデルを中心に展示する傾向にある。市場の需要が、大型戦艦から小型ボートになりつつあることが主な理由だが、浮かした出展費を接待やプライベートパーティに廻した方が効果的と言うのが本音のようだ。

また、多くの展示ベンダーは 事例、ソリューション、印刷業務の効率化、などを紹介したセミナーを積極的に開催し、来場者への教育に注力している。実際にデモを見てもらって、技術の進歩やユーザビリティを体感してもらうこと以上に、プロセスやソリューションが重要視されてきている表れと思う。

最近業界では、毎年印刷関連の展示会を行う意義があるかの議論が絶えないが、当面は毎年継続させていく方針であるという。

(What They Think, InfoTrends, Digital Nirvana
その他記事やフォーラムを参考)

Graph Expo 2010変化していく印刷関連ソフト

印刷の業務プロセスを支援するソフトが登場してから久しいが、最近の景気後退のため、その導入が停滞。ただ、その発展はとどまっているわけではない。印刷業者を取り巻く環境が変化し、業者の役割にも変化が求められているように、それを支援するソフトも変化している。Graph Expo 2010で見られた、印刷関連ソフトの最近のトレンドは6つに分けられるといえよう。

クロスメディア関連ソフト

個人宛てディレクトメール、ウェブホームページへの誘導、メール配信などが基本的機能であるが、モバイル、ソーシャルネットなどそのコミュニケーションチャネルは広まりを見せている。それら様々はチャネルから取得したデータの分析などを行なう機能を印刷業者は求めており、ソフトベンダーはそのような要求に対応しようとしている。

印刷機器やシステムのオープン化

印刷機器とそれに関連したワークフローソフトは各社から販売されているがクロードシステムの傾向にあった。しかし、印刷業者は、業務の効率化、コスト削減、工程の合理化などを目指した使いやすいシステムを求め、JDFなどスタンダードを中心にいままでクロードされていたシステムや機器をオープン化する動きが印刷業界全体で広がっている。

一般印刷とデジタルプリントとのワークフローの統合

印刷業者がデジタルプリンターを導入するにつれ、一般印刷と併せて製造することが多くなっている。オフセット印刷機にインクジェットモジュールを乗せたプレスコンフィギュレーションが代表例といえる。それを稼動しようとするデジタルプリンターとオフセット印刷のワークフローが別々であると障害になってしまう。従来のオフセットとデジタルワークフローのベンダーは、このギャップを埋めるために、機能と汎用性を追求したハイブリッドワークフローの提供に取り組んでいる。ソフトのクラウド化とサービス化

印刷業者にソフトを提供していた多くのベンダーは、ライセンスング(実施許諾)からサブスクリプションサービスモデル(一定期間の利用に対して課金を行なう)に切り替えつつある。これにより、システム部門を持つことができない中小印刷業者が印刷支援ソフトを導入しやすくなった。中核となるソフトのライセンスング(実施許諾)ビジネスを中止し、サブスクリプションモデル(一定期間の利用に対して課金を行なう)のみを提供するソフトベンダーもではじめている。「ソフトを所有する時代から借りる時代へ」の流れは印刷業界だけではなく、様々な分野で見られ、世の大きな流れになっているようだ。

生産管理のモバイル化

スマートフォンやタブレットPCなど携帯端末が日常的になってきた今日、印刷生産管理をどこにいてもアクセス出来る機能をソフトベンダーは提供し始めている。管理者が外出先から遠隔管理ができるようになっただけでなく、スマートフォンなどを使って、オペレータや管理者が現場で、リアルタイムの生産情報を見ることができるようになった。これにより、生産体制を迅速かつ柔軟にすることに役立てようとしている。

Web to Print

印刷業界でこの言葉を聞いたことがない人はいないだろう。Web to Printと一言でいってもその範囲は広い。端的に表現すればインターネットを介した受発注システムといえよう。この種の印刷

業務支援システムは印刷業界にもたらした影響は非常に大きい。(InfoTrends、その他情報を参考)

印刷機器及びサブライグローバル市場、2015年には212億米ドル規模

2009年度は印刷機器及びサブライ業界にとって、今までの歴史に見られない不景気に見舞われた。特に印刷機器の売り上げは7～8%減少し、機器メーカーは生き残り策に講じたが、倒産したメーカーも目立った。印刷機械メーカー最大手のハイデルベルグが、9月に開催されたGraph Expo 2010の出展を見送ったことはその象徴と言えよう。将来性が期待されているインクジェット機器さえも、広告業界の不景気でワイドフォーマットプリンタを中心に、売り上げが大幅に減少した。

しかし2010年の前半は若干明るい兆しが見え始め、今年は2年前の2008年レベルまで戻りそうだ。今後、中国やインドを含むアジア地域が牽引役となって、継続的成長が見込まれ、2015年には全体で212億米ドルとなるであろうとGlobal Industry Analysis, Inc.社の調査レポートでは予測している。

悲観的データがほとんどである昨今の印刷業界で、このような調査レポートは業界のプレイヤーに安堵感を与えている。

苦悩する米郵政事業

11月13日に米郵政事業が、2010年度の業績を発表し、85億米ドルの赤字であることを明かした。赤字額は、前年度の38億米ドルの約2倍である。米財務局からの150億米ドルの借入金枠は、ほとんどそこを付いてしまっていて、最後の35億米ドルを使い切ってしまう見通しだ。

郵政事業の維持が困難になっているのは、インターネットの普及にともなう情報流通の劇的な変化によるマクロ的要因にある。米国の郵便事業は、法的にユニバーサルサービスを維持することを前提されているがゆえに、民営化されていない。郵政の民営化は、世界レベルでみると成功している例が少なく、成功した国はドイツとイタリアくらいである。

変貌する米国の通知業務事情

米国のDPS市場は、成熟段階に入っている。印刷業界同様に、業界再編により、大手が中小を吸収し、大手の規模がますます大きくなっている状況が続いている。主な要因は、通知物のオンライン化だ。前述の郵便量のグラフ(表1)を見ればそれは明らかで、第一種郵便は2001年をピークに減少を続けている。第一種郵便は、大手企業が郵送する通知書が大半。通信大手のVerizon社は「グレートペーパーエスケープ」(大なる紙からの脱出)懸賞キャンペーンを大々的に行なうなど、電子配信を促進するため、懸賞やインセンティブのキャンペーンを行っている。

ネット利用者は金融業務にどのような利便性を求めているかについて、Intuit社が行ったアンケート調査で一番多かったのは、請求書支払機能の利便性で84%。その他、家計の包括的管理(68%)、支払い経緯の把握(66%)の利便性などが続く。

InfoTrend社のデータを見るとDPS業界の市場規模が、ここ数年間、約40億米ドル前後で横ばいになっている。しかし、請求書の電子化の影響をうけていないと安易に決めつけるのは浅はかだ。その内情を詳しく見ると、大手業者が小さな業者

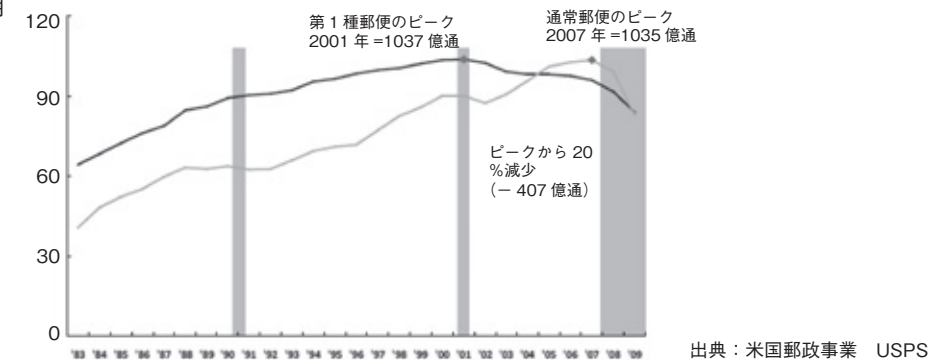
を吸収して売り上げを伸ばしているだけで、社内処理を含めた通知業務のパイ全体は縮小傾向にある実態が見えてくる。

Interquest社の調査によると、10年前は、紙がほぼ100%だったのが、2009年時点では、88%が紙で12%が電子媒体となったという。この状況が毎年3%くらい減少すると、2012年には紙が約78%まで減少すると予想している。2012年に22%の通知書が電子媒体になるという予想は、DPS業界の更なる再編を意味するだろう。

DPS業者各社は、通知書のプリントデータストリームをネット向けに変換し、請求書をネットでも表示する紙とネットを融合させたワンストップサービスを提唱しているが、残念ながらあまり成功に至っていない。

通知書を郵送する企業側にとっては、データプリント向けの情報の流れと、相互方向性やリアルタイム性が要求されるネット情報の流れは次元の違うもので、DPS業者が提唱したこのワンストップサービスは「自動車に見せかけた馬車のような不可解なもの」に映ってしまい、付加価値のミスマッチの典型例かも知れない。

表1 景気後退期



業務委員会

■「2011年度版会員名簿」の発刊案内

2年毎に発刊致しております会員名簿の2011年度版(平成23年1月現在)が1月に発刊されました。

日本フォーム印刷工業連合会の役員及び各委員会委員、全国のフォーム印刷工業の正会員・準会

員及び特別会員を掲載致しております。

会員の皆様には無料配布を致しますが、追加希望及び会員以外の皆様にもお届致しますので、事務局宛てにご連絡下さい。

体 裁：B-5判／本文103ページ

掲載会員：約600(正会員・準会員及び特別会員)

配布価格：会員 2,000円、一般 5,000円

申込み先：〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日

本印刷会館 6 階

日本フォーム印刷工業連合会事務局

☎ 03-3551-8615 FAX 03-3555-8466

■出展案内

「PAGE 2011」に日本フォーム印刷工業会が初出展

「PAGE」は1988年に印刷、メディア業界のコ
ンベンションとして開催以来、今回で24回目を
迎え、毎年7万人以上の来場者があります。

昨年は「新生グラフィックビジネス」という全
体テーマを掲げ、DTP 関連・MIS/JDF・デジ
タルプリント・クロスメディアに重点を置いた展
示やセミナーが行なわれ、今年は「情報デザ
イン新時代」をテーマに2月2日(水)～4日(金)ま
での3日間、サンシャインシティコンベンショ
ンセンター TOKYOにて開催されます。

今回、日本フォーム印刷工業連合会は出展各
社の協力の基に、この展示会に初めて団体とし

て参加致しました。

日本に於けるビジネスフォームの歴史、参加
各社の特徴ある商品の紹介、紙メディアと電子
メディアの融合、更に、中国BF業界団体との交
流等、幅広い視点から紹介を致します。

参加企業

(株)イセト、(株)木万屋商会、(株)昇寿堂、トッパ
ン・フォームズ(株)、三郷コンピュータ印刷(株)、
中国印刷技術協会BF印刷分会の会員企業10社

出展協力

ドイツmetaio社、日本IBM、日本ユニシス・サ
プライ(株)、水三島紙工(株)

■書籍案内 (日本印刷産業連合会発刊)

印刷現場における個人情報保護Q&A 第3版

(社)日本印刷産業連合会が制定した、「印刷産業
における個人情報保護ガイドライン」の解説書とし
て「印刷産業のための個人情報保護の手引き」があ
ります。併せて具体的な課題の解決施策を解説し
た「印刷現場における個人情報保護Q&A」を公開
し、好評をいただけてきました。

当連合会の個人情報保護研究会では「プライバシ
ーマーク指定審査機関」事業を通じ、蓄積してきた
豊富な経験も反映し「第3版」として編集・発行す
る運びとなりました。

全117問に及ぶQ&A形式による解説及び、「ガイ
ドライン」、「手引き」と一体となった編集のほか、
経済産業省調査による各産業界での「効率的効果的
な取組事例」の紹介など、より分かりやすく、利用
しやすい解説書が完成しました。

「印刷産業における個人情報保護ガイドライン」
に沿って、個人情報保護マネジメントシステム

(PMS)の運用と維持をして行く上で、「手引き」と
同様に「印刷現場における個人情報保護Q&A(第3
版)」は印刷事業者の必携の書となると確信してい
ます。本書が個人情報保護の取組み推進に、有効
に活用されることを願っています。

監 修：TMI総合法律事務所 弁護士 牧山嘉道
慶應義塾大学総合政策学部 准教授
新保史生

編 集：社団法人 日本印刷産業連合会経営労働委
員会 個人情報保護研究会

体 裁：A-4判／本文102ページ

日本フォーム工連会員 特別価格：800円

書籍に関する申込み先

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

日本印刷会館 6 階

日本フォーム印刷工業連合会事務局

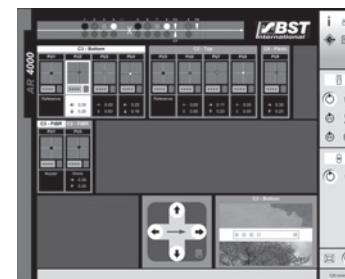
☎ 03-3551-8615 FAX 03-3555-8466

ビジネスフォーム印刷用 BST自動見当装置システム

プロセスカラーの見当合わせ時間の短縮に最適！

■採用のメリット！！

- ・各オーダ及びオーダプロフィールのデータ管理！
- ・ロット量にかかわらず始かり時間の大幅短縮！
- ・オペレータの技量を選ばないシステム！
- ・手動操作に対して大幅な損紙の軽減！
- ・印刷スピードの大幅アップ！
- ・大幅な損紙の軽減



BSTビーエスティ日本株式会社

東京営業所 〒108-0074 東京都港区高輪3-25-27 アベニュー高輪411号室
本 社 〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-10-9 箕面フレイベルビル3階
大阪工場 〒594-0062 大阪府和泉市寺田町3-1-27

TEL：03-5798-7805 FAX：03-5798-7806
TEL：072-727-4704 FAX：072-727-4914
TEL：0725-44-9930 FAX：0725-44-9931



21世紀の情報記録を サポートします。

三菱情報記録用紙

三菱 NCR 用紙 三菱 IJ フォーム用紙 三菱 DF カラー M・G
三菱 ダイヤフォーム 三菱 ダイヤメールシリーズ 三菱 OCR 用紙 三菱 感熱紙

三菱製紙株式会社

洋紙事業部 情報・特殊紙営業部 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番2号 ☎ 03(3213)3732
大阪営業所 情報用紙グループ 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1丁目3番9号 ☎ 06(6271)4455

三菱製紙販売株式会社

本 店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-4 ☎ 03(3566)2341
大 阪 支 店 〒541-0056 大阪府中央区久太郎町1-3-9 ☎ 06(6271)2271
名古屋支店 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-16-22 名古屋ダイヤビル ☎ 052(563)7561
東北支店 〒983-0045 仙台市宮城野一丁目11番1号ダイヤミックビル ☎ 022(295)7710
九州支店 〒810-0001 福岡市中央区天神1-15-6 綾杉ビル ☎ 092(771)1531

NPiフォーム *NEXT-IJ*



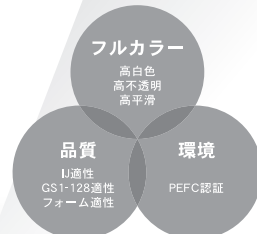
次世代を担うフルカラーインクジェットフォーム

近年、DPS 事業におけるインクジェット印刷の高速かつフルカラー化は目を見張るものがあります。当社は高白色、高不透明、高平滑でご好評いただいております「NPiフォーム NEXT」をベースに高性能インクジェット適性(耐水性、高発色性)を付与し、新たにラインアップいたしました。

■NPiフォーム NEXT-IJ 規格表

米坪(g/m)	64.0	81.4	104.7	127.9	157.0
連量(kg)	55	70	90	110	135

※尚、本製品は受注生産となります。



NEXT-IJ 品質概要

日本製紙株式会社 情報・産業用紙営業本部 情報用紙一部

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-2-2 Tel. (03) 6665-1042

QuadTech® ビジネスフォーム プレスコントロール

損紙削減・生産性効率改善

クォードテックは利益拡大をお約束します。

クォードテックは31年前 米国の印刷工場から始まりました。世界86カ国でクォードテックの製品は活躍しています。



マルチカム自動見当装置



アキュカム カラーコントロール

製 1 マルチカム 自動見当装置 印刷・加工位置合わせ装置 品質検査装置
品 2 静止画像装置 カラーコントロール装置 ウェブクリーナー

QuadTech®

Our passion is *your success*.™

クォードテック日本支店

〒336-0034 埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26

TEL : 048-839-8831 大阪 : 06-6330-0919

http://www.quadtech.co.jp

紙粉による印刷トラブルを解消!!

特許出願中

KBDペーパークリーナー

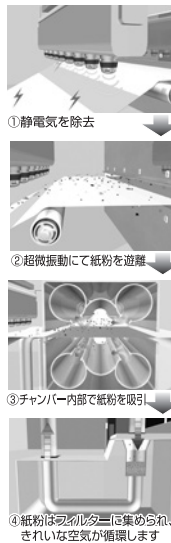
もう紙粉のトラブルに悩むことはありません!

特長

- 素材に全く傷を付けず、強制的に素材(紙、フィルム)を超微振動させ、紙粉を強制的に遊離させて、効率よく吸引除去させます。
- 特殊ローラーを使用し、素材(紙、フィルム)に対し粘着したり、擦ることがありません。

紙粉の除去が多様なメリットをもたらします!

1. 白ヌケが全く無くなった
2. 印刷機を止めることがないので...
 - 紙のロスの軽減
 - ブランケット洗浄回数が1/3に
 - 刷版の洗浄が不要になった
 →以上により、**印刷機稼働率が大幅にアップ**
3. その他
 - 紙粉が飛散しないので、工場内の空気がきれいになった
 - メンテナンス不要によりオペレーターの負担が軽減
 - 色合いのチェックや見当ズレ等のみに注意すればよかった
 - 洗浄液使用量が1/3に、またインキに紙粉がまじらないので、インキ廃棄量も削減
 →**枯渇資源の削減につながる**



KOBUNDO

インキ練りローラー自動洗浄装置

KBDローラーグリーンシステム

インキ洗浄時間の大幅短縮・安全、資源の節約を極める

販売実績記録を
更新中!



インキカラーコントロールシステム

KBDマイクロカラー-SL

シール・ラベル小型印刷機専用システム

タッチパネル方式で
使いやすくなって、
新機能も追加!
インキカラーコントロールが
グッと身近に。



ニュータイプ登場!!



印刷機材の総合商社
株式会社

光文堂

http://www.kobundo.co.jp

本店/〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号 TEL 052(331)4111(代)
支社/東京 支店/東北・静岡・大阪・北九州・福岡 営業所/北海道・青森・山形
千葉・山梨・沼津・浜松・豊橋・岐阜・福井・金沢・富山・京都・山口・大分・熊本・沖縄